

HEALTH CARE

The Newsletter of the Japan Health Care Dental Association

vol.11 no.2

(年間6回刊行・通巻061号)



日本ヘルスケア歯科研究会
事務局 東京都文京区関口1-45-15-104

☎ 03-5227-3716

Fax. 03-3260-4906

URL <http://www.healthcare.gr.jp>

E-mail : center@healthcare.gr.jp

編集代表 杉山精一

編集制作 有限会社 秋 編集事務所

○ 研究会入会金	歯科医師	5,000円
	その他	3,000円
研究会年会費	歯科医師	12,000円
	その他	6,000円
郵便振替口座	00190-7-407895	
口座名義	日本ヘルスケア歯科研究会	
銀行振込口座	三菱東京UFJ 江戸川橋支店	
	普 0931013	
口座名義	日本ヘルスケア歯科研究会	

重要なお案内

●以下の同封物をご確認ください。

1. 2007年研究会会誌

2. 企画頒布品ガイド

企画頒布品ガイドが新しくなりました。1部ずつ同封しています。

3. 研究会紹介パンフレット

4. 2008年度会費払込み用紙

2008年度会費未納の方に同封しております。(行き違いになりましたら、ご容赦ください)

催しものご案内

① ワンデーセミナー大阪

日時：2008年6月15日(日)

会場：千里ライフサイエンスセンター
(豊中市)

② ワンデーセミナー福岡

日時：2008年6月29日(日)

会場：福岡商工会議所会議室(福岡市)

③ 第6回認証ミーティング

第4回オピニオンメンバー会議

日時：2008年7月13日(日)

会場：東京歯科大学 水道橋血協記念
ホール・会議室

④ 歯科衛生士育成検定コース

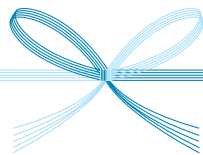
日時：2008年10月12・13日

会場：新東京歯科衛生士学校

⑤ 歯科衛生士育成基礎コース

日時：2008年11月2・3日

会場：新東京歯科衛生士学校



ヘルスケア歯科研究会と 私の診療所の10年

会員番号1番として

診療所の幹(理念)は変わらない

「健康を守り育てる歯科医療」が実践できる診療所に進化させたもの

「知らない」を「知っている」に変えるために

院長の決断、スタッフと支え合う仲間たち

変わらないこと・変わったこと・わかってきたこと

もし、研究会が設立されていなければ

熱い思いと不安を抱えた日々から10年

自分がこの仕事をリタイアした時に、納得できるよう

結果は後からついてきます

初心を忘れず

歯科医50余年、人工物は自然を超えない、予防に勝る治療はない

「ほんとうの意味」で患者中心の医療が始まった

飯田喜人 (98-0001)

上田芳男 (98-0015)

河野正清 (98-0041)

森谷良行 (98-0175)

田中正大 (98-0291)

藤木省三 (98-0296)

足本 敦 (98-0500)

杉山精一 (98-0670)

米谷敬司 (98-0958)

鈴木正臣 (98-0965)

後藤 諦 (98-1136)

日野完夫 (98-1152)

秋元秀俊 (98-0330)

会員番号1番として

飯田喜人(飯田歯科医院・豊島区開業)

わたしは、1997年に卒業し、歯科医師のスタートを切りました。日本ヘルスケア歯科研究会を立ち上げるから、入会するよう97年に熊谷崇先生に誘われ会員になりました。右も左もわからない新米なのに、いきなり口腔内写真、X-ray14枚法、サリバテストを歯科医師一年生から始めました。予防に対する情熱と無謀は紙一重で、失敗と挫折の連続でした。歯科医師としても社会人としても無知でした。基本的に予防とは、患者さんの来院モチベーションが一番低いところで、最も臨床の経験や力が必要であるのに、患者さんは、治療を希望されて来院なされているのに、予防の話をされても話が噛み合わないし、ただの押し付けの予防だったのです。ベテランの先生方には、笑い話でも、そのことに気づくには何年もかかりました。97年に産まれた長女は、もう4月で小学校5年生です。私も歯科臨床経験が11年になり、小学5年生になりました。鼠年の年男になると、予防の奥深さや、困難さが、最近やっと少し理解できてきました。会の創設からの一会員として、多くのことを学ばせていただき、感謝していますし、私の歯科臨床の基礎であり、原点でもあります。今後も会員番号1番を少しだけ誇りにして、陰ながら研究会の発展を応援させていただきます。

診療所の幹(理念)は変わらない

上田芳男(上田歯科医院・大阪市開業)

歯科医院としてこの10年間、枝葉はいろいろと生えてきましたが、幹はあの朝日新聞の社説の中にある日本ヘルスケア歯科研究会の理念のままです。これからもより多くの歯科医院がこの理念の下に集われることを願っています。

「健康を守り育てる歯科医療」が実践できる診療所に進化させたもの
河野正清（河野歯科医院・小平市開業 コアメンバー）

日本ヘルスケア歯科研究会が発足して10年の時が過ぎました。日本ヘルスケア歯科研究会の提唱すること、目指していることは根本の部分においてはこの10年間微塵も変化なく揺るぎないものでした。日本の歯科医療の方向性において大きな影響を及ぼしたと言えるでしょう。私自身の診療所もこの10年間「健康を守り育てる歯科医療」を自分なりに一生懸命考えて、努力して、より完成度の高い状態を目指して改善を重ねながら実践してきたつもりです。

思い起こせば、1996年頃に熊谷 崇先生が20数名の有志の方々に前して「インターナショナルヘルスケアファンデーション (I.H.C.F.) の日本支部を設立することになったので皆さんに協力をお願いしたい」と熱く語っていたのが私にとっての日本ヘルスケア歯科研究会の始まりでした。1998年設立時からの評議員ではありましたが実態は単なる1会員そのもので、次から次へと行動を起こして前へ前へと突き進む熊谷崇先生から置いてけぼりを食わないように、後ろから必死で追いかけていたのが前半の5年間でした。元々、開業（1982年）当初から予防や歯周治療を基盤にした診療所づくりを実践してきましたが、日本ヘルスケア歯科研究会のコンセプトと目標とする診療形態が私の診療所を「健康を守り育てる歯科医療」が確実に実践できる診療所に進化させてくれました。後半の5年間はそれまでの5年間とは全く違う5年間でした。2004年5月に認証診療所となったのと前後してコアメンバーとして日本ヘルスケア歯科研究会の運営に関わるようになりました。それまでは自分の診療所内での活動が主でしたが、それ以後は診療所外での活動が飛躍的に増加しました。コアメンバーとしての役割だけでなく、歯科衛生士育成プログラムをスタートさせて育成基礎コース、検定コースを実施したり、会員同士のネットワーク作りのために東京近郊のヘルスケアグループとしての東京ヘルスケアグループを立ち上げて活動したり、いくつかの地方都市で日本ヘルスケア歯科研究会の理念と活動を講演したりすることになりました。そんな行動を見守ってくれている友人から時々「大変ですね」と言われることがあります。しかし、確かに忙しいのですが、私はこんな活動をしていることを「大変だ」と感じたことは一度もありません。診療室内でヘルスケア歯科診療を実践している時も、診療室外で様々な活動をしている時も、いつでもどこでも、私はやりがいと充実感を感じながら、日本ヘルスケア歯科研究会と共に歩んできました。

患者さんが生涯にわたり口腔の健康を維持し健全な機能を全うすることで喜びを感じてもらえることと、歯科衛生士、受付、助手、歯科技工士等の歯科医院を取り巻くすべてのスタ

ッフ達が夢と希望と誇りを持ちながら生涯にわたり働き続けることが出来る、そんなヘルスケア歯科診療所をこれからも目指すと共に、より多くの診療所がそんなヘルスケア歯科診療所になっていけるように、コアメンバーとして日本ヘルスケア歯科研究会の運営に尽力していきたいと心の底から思っています。

「知らない」を「知っている」に変えるために

森谷良行（もりや歯科・坂戸市開業）

私の中では10年しかたっていないなという感覚です。早い10年間でした。発足当初から参加させていただき、演者の皆さんの熱いメッセージを今でも覚えています。それから、10年の月日で、会は時代とともに変化してきましたが、幹部の方々の熱い思いは今も変わらないと感じています。

今後の課題は、ただ一つだと思っています。私も含めて歯科医師の意識改革です。大小さまざまな歯科診療所は日本全国に多数ありますが、そのトップにいるのは歯科医師です。つまり経営者である歯科医師が変化しない限り、大きな変化はないと思います。「今現在の保険制度では、治療しないと経営が成り立たない」という声を聞くときもありますが、やって出来ないわけではないと私は思います。そうすると次にくる言葉は「患者さんがすぐに削ってほしい」という。確かにそうかもしれませんが、その患者さんは、予防ということを知らないだけかもしれません。地域の方々へ、私たちが知ってほしいというメッセージが届いていないだけだと思っています。そのメッセージが患者さんの心をつかめば、患者さんから「予防をしたい」「歯を守りたい」と言って来てくれるのではないのでしょうか。

私たち、歯科医療関係者の知っていることを、地域の方々には知らないことが多くあります。そのため「知らない」を「知っている」に変えるために、各方面へ、あれこれと試行錯誤しています。地域の方々の「知らない」を「知っている」に変化させるために私の歯科医師人生をかけて行うことと思っています。

もし、歯科医師から変わらなくても、患者さんたちはドンデン予防を考えるようになってきていると思います。患者さんたちが変わっているので、歯科医師も変わらなくてはいけなくなるでしょう。そうなってから焦って診療所のシステムを変化させても、そんな簡単にはいかないのです。今からできることを少しずつ変えていきましょう。それが、患者さんのためにもなるし、診療所のためにもなると信じています。

今から、変化させようと考えている方々へ

すべてを一気にする必要はないと思います。何でもいいと思います。今までできなかったことを一つ取り入れてみまし

よう。その積み重ねで、いつの間にかいろいろなことができるようになってきていると思います。

偉そうなことを言っていますが、私もまだまだ試行錯誤中です。一緒に考えましょう。

院長の決断、スタッフと支え合う仲間たち

田中正大（田中歯科クリニック・川口市開業 コアメンバー）

1998年3月1日、雪模様のなか、一橋ホールでの設立記念総会で感じた熱気が今も懐かしく思い起こされます。そのとき思い描いていた未来に今私たちは近づいているのでしょうか。

この10年間、私の診療室は、日本ヘルスケア歯科研究会とともに歩んできました。

その結果10年前と比べ、当時は想像もしていなかったほど大きく変化しました。

もちろん、ずっと順調にきたわけではありません。

はじめの数年间は、基礎コース、東北支部スタッフミーティング、シンポジウム、講演会に参加する度に、自分の診療室を何とかしなくては、という思いを強くしていましたが、現実はいした変化はできずに、空回りばかりしていました。診療室を変えていくためのはじめの一步が踏み出せずにいたのです。

当時も講師の方々によく言われていたことですが、やる、やらないは結局院長が一步踏み出すかどうかにかかっている、あれこれできない理由を挙げてはダメ、院長が決めればいいことなんだから、と。

当時はそう言われても、講師の先生が特別だからできるのであって、自分には無理だと思っていました。今は、その時言われた意味がよく分かりますが、当時はそれを理解することはなかなか難しかったです。



右から、柏田、熊谷、岡、藤木（会長）、加藤、太田（副会長）、伊藤の設立時運営委員



熱気あふれる設立総会

日本ヘルスケア歯科研究会 年表

- 1997.7.10 仮称「歯科ヘルスケア学会」発起人会準備会（東京ステーションホテル会議室）会の名称、設立趣旨、会則案起草
- 1997.10 事務局を株式会社モリムラ内に設置し、会員募集開始
- 1998年**
- 1998.3.1 ニュースレター vol.1 no.1 発行（以降2ヵ月毎に発行）
- 1998.3.1 設立総会・記念講演会（日本教育会館）
記念講演・多田富雄（東大名誉教授）、大熊由紀子（医療福祉大学大学院教授）、会員講師・柏田聡明、熊谷崇、設立アピール採択
- 1998.6 【調査報告】初期齲蝕の診査における探針使用の考え方
- 1998.4.4-5 酒田会場第1回（1998年中に第2,3回）ヘルスケア基礎コースのスタート
- 1998.4.11-12 大阪会場第1回（1998年中に第2回）
- 1998.6.26-27 東北支部第1回スタッフミーティング（旧フォーラム DEWA スタッフミーティングを継承）
- 1998.8.30 学術講演会（大阪・よみうり文化センター）
「知っているつもりブラークコントロール」招待講師・恵比須繁之（大阪大学教授）、会員講師・岡賢二、熊谷崇
- 1998.9 研究会のホームページ開設
- 1999年**
- 1999.1.14-15 ヘルスケア歯科中級コース（1999年に第2回）
- 1999.2.13-14～ ヘルスケア基礎コース（酒田第4,5,6回、大阪第3,4,5,6回）
- 1999.3.13-14 第2回総会・国際シンポジウム（日本青年館）
カリエスフリーを育てる歯科医療
カリエスフリーを育てる一わたしたちの役割
初期う蝕の診査と治療
特別講演・Prof. D. Bratthall（スウェーデンマルメ大学）、Prof. J. M. Ten Cate（オランダACTA 副所長）、会員講師・熊谷崇
- 1999.4.20 研究会会誌 vol.1, no.1 発行（以降1年毎に発行）
- 1999.5.15-16 ヘルスケア歯科実践コース（酒田、1999年に第3,4回）
- 1999.6.1 事務局を移転株式会社モリムラから有限会社秋編集事務所内へ）
- 1999.9 患者データ管理ソフト「ウィステリア」頒布開始
- 1999.10.10 学術講演会（岡山テレサホール）
「初期齲蝕の診査と治療」のために診療室ですべきことは何か？
特別講演・Dr. Lars G. Petersson（スウェーデン・ヘルスケアセンター）、会員講師・岡賢二
- 1999.10.22 患者データ管理実習コース（第1回）
- 1999.12 アポイント管理ソフト「アポイント管理職」頒布開始
- 2000年**
- 【調査報告】 フッ化物応用に関する専門家・会員の意識調査報告

そう思いつつも、ある時点で意を決して、診療システムを一気に転換し、診療室も新築移転し、降りかかってくる諸問題を一つ一つ解決し、悪戦苦闘し続けて、何とか認証診療所と言われるところまで来ることができました。今思うとかなりのエネルギーを費やしたなと感じます。こういう診療をしたい、診療室をこうしたいという熱い思いがそこあったことと、何よりもすばらしいスタッフに恵まれて、支えられてここまでこられたと思っています。スタッフには心から感謝しています。決断するのは院長ですが、実践するのは、やはりスタッフの力に負うところが大きいと思います。

また、いろいろ迷っていた時期に、当時の関東支部の幹事の募集に応じて参加し、以後現在の東京ヘルスケアグループに至るまでの活動も大きな助けになりました。

院長の決断、スタッフと支え合う仲間たち、これが診療室を変えていく重要なキーワードの1つになるのではないのでしょうか。そのようなことも考えて、今秋のヘルスケアミーティングが企画されています。是非、診療所ぐるみで参加してください。そして、日本ヘルスケア歯科研究会のこれからの10年を一緒になって作っていける仲間がどんどん増えていくように願っております。

変わらないこと・変わったこと・わかってきたこと

藤木省三（大西歯科・神戸市開業 コアメンバー）

春の大雪の設立総会から早くも10年が経過しました。自分自身のこの10年を振り返ってみると、設立当時から信じて変わらず続けてきたこともあれば、実践しているうちに考え方が変わってきたこともあります。そしてそれよりもっと大切なことは、10年以上続けてきたからこそ見えてきたことがあることです。良い機会なので、まとめてみたいと思います。

<時間が経過しても変わらないこと>

ヘルスケア研究会設立の手伝いに呼ばれて以来、私はこの研究会の原則を次のように理解しています。それは今でも変わっていません。

1. 自らの利益擁護団体ではなく、患者（住民）優先の活動

「結果に対する診療中心の歯科界を自分たちの力で変えよう」という気持ちは、まさしく自らの力を社会に還元しようとする情熱そのものであったと思います。自分たちの利益やそれまでの権威にとらわれず、患者や住民のために何が必要なのかを考えることができる日本では数少ないグループであり、今でもその精神は受け継がれていると思います。

私たちの理念とは逆に、ここ数年厳しくなりつつ状況を利用してことさらに不安を煽ることで、本来優先すべき患者よ

りも診療所の利益を優先するような風潮が（歯科医療分野に）みられることを情けなく思います。

2. 診療室での目標は、疾患の抑制ではなく来院された患者さんの生活の質の向上

生活の質を考えると長期にわたって自分の歯を保存することが重要だと考えられるため、診療室ではう蝕や歯周疾患の予防が中心となってきたと思います。しかし、う蝕や歯周疾患だけでは解決できないこともわかってきました。

3. う蝕、歯周疾患の病因論を基にした診療

歯周炎に関する疫学から、ハイリスクグループは10-20%程度であることがわかっています。う蝕も本当にコントロール不可能なハイリスクな方はそれほど多くはないと感じています。病因論から推測されるよりも遙かに多い重度の患者がいる現実のギャップを考えると、まだまだ伝えるべきことは多いのではないかと思います。

4. 診査資料、診療結果を記録し再評価する

従来の歯科診療では、自らの診療の結果を評価することなく、正しいと信じて修復処置を続けてきました。ヘルスケア歯科研究会では、規格性のある資料を採ることはもちろん、結果も記録することで自分たちがおこなっていることの評価をすることを提言してきました。今では、それができる日本で唯一のグループではないかと思います。

5. 予防的定期管理をおこなう

予防的定期管理の内容はこの10年間に変化はありましたが、患者と長期にわたって継続的につきあうことの重要性はますます確固たるものになっていると思います。つまり、診断も処置も時間の断面だけで判断しないで、経時変化を含めて判断する必要性があることがわかってきます。

<時と共に考え方が変わったこと>

1. う蝕のリスクコントロールの考え方

当時、脱灰と再石灰化の概念を整理できたことは大きな成果だったと思うが、ここ数年ヘルスケア歯科研究会の使ってきたレーダーチャートだけでは把握しきれない要因が多いと思うようになりました。今は、経時変化を追うことが重要だと考え、そのためには患者費用の軽減が不可欠になるため細菌検査をCAT21Testに今年から変更し、コンピュータの記録も経時的な変化が表示できるように変更中です。

余談ですが、変更の決断は私がしましたが、検査の実施手順変更からコンピュータの新しい記録・表示方法に至るまでスタッフ主導で進められていて、大西歯科のスタッフの実力を知るうれしい結果となりました。

2. 歯が壊れていく原因

経験が豊富な方には当たり前のことかもしれませんが、定



小林清吾



D. Bratthall



JM ten Cate

期管理を通じて長期にわたって患者さんの口腔内を診ていると、歯が壊れていく原因はう蝕と歯周疾患だけでないことがわかります。例えば、上顎前歯の補綴が壊れるのはほとんどの場合（原因は不明ですが）歯列の変化によって負担がかかりすぎることのような気がします。これは一つの例にすぎませんが、長期にわたってメンテナンスを続ける場合は、本当に様々な要因を考慮する必要があることを経験しました。

この研究会でも、今後はう蝕、歯周疾患以外の要因に関して議論をすべきだと思います。

3. 予防的定期管理の内容

「う蝕も歯周疾患もバイオフィルムを原因とする感染症である」と単純化してしまえば、メンテナンス＝PMTCと言えるでしょう。しかし、長期にわたって歯を保存するためには、患者の生活環境、全身状態、咬合、修復物の変化を知ることが必要になってきます。

私の診療室でもスタッフが熟練するにつれて内容が充実してきたように思います。言い換えれば、スタッフが熟練すれば短時間でメンテナンスを終わることができるのではなく、熟練したスタッフほど“見えてくる”ことが増えてメンテナンスの内容が濃密になってくるようです（することが多くなるので時間が増えることも）。

<長く続けてきてわかったこと>

1. スタッフが長く勤めているメリット

私のところでは、19年、15年勤めている二人の歯科衛生士がいます。今では、この二人の担当する10年以上継続して来院されている患者が100人を越えています。担当が代わることなくメンテナンスを続けることで、余分な要因なしに多数の患者の経過を追うことができました。そこから本当に多くのことを学ぶことができ、幸せだったと思います。



市民フォーラム（酒田市民文化ホール）

【調査報告】 患者アンケート調査報告書 2001

- 2000.1.22 ヘルスケア歯科実践コース（第5回）
- 2000.3.19-20 **第3回国際シンポジウム**（朝日ホール）
健康を守り育てる歯科医療のために
カリオロジーとフッ化物に関するコンセンサス
歯周病の全体像と歯周治療
招待講師・小林清吾（日本大学教授）、栗原英見（広島大学教授）、Prof. D. Bratthall（スウェーデン マルメ大学）、Prof. J. M. Ten Cate（オランダ ACTA 副所長）他
- 2000.3.4-5～ヘルスケア基礎コース（酒田第7, 8, 9回、大阪第7, 8回）
- 2000.4.16 患者データ管理コース（大阪第2回）
- 2000.10.28-29 **秋季学術講演会**（新潟県歯科医師会館）
歯周治療から始まる成人の発症前コントロールへの道のり
招待講師・吉江弘正（新潟大学教授）、岸洋志（新潟市保健所） 会員講師・岡賢二、本間彰一、日野晃伸

2001年

- 2001.3.18-19 **第4回国際シンポジウム**（砂防会館別館）
歯科医療における患者利益
Part 1 設立の趣旨に立ち戻って
会員講師・藤木省三、斎藤直之
Part 2 私たちの臨床は患者利益になっているか？
招待講師・Dr. P. Hujoel（ワシントン大学準教授）
ディスカッション・コーディネータ 豊島義博
招待講師・花田信弘（国立感染症研究所）、会員講師・岡賢二
Part 3 歯科医療の近未来像と私たちが果たすべき役割
招待講師・Dr. M. Allukian（ボストン市保健医療管理局部長）、会員講師・藤木省三ほか
- 2001.3.24-25～ヘルスケア基礎コース（酒田第10, 11回、大阪第9回）
- 2001.4.15 患者データ管理コース（大阪第3回）
- 2001.5.26-27 ヘルスケア実践コース（酒田第5回）
- 2001.6.16 第1回歯科衛生士だけミーティング（お茶の水スクエア）
- 2001.7.29 市民フォーラム（酒田市民文化ホール）
- 2001.9.1-2 ヘルスケア歯科コースの東京（事務局）開催への移行
東京基礎コース（2001年内第1,2回）
- 2001.10.21 **第4回秋季学術講演会**（千里ライフサイエンスセンター）
歯周病のリスクコントロール診療室でどのように禁煙指導に取り組むか？
招待講師・望月友美子（国立公衆衛生院主任研究院）、三條典男（三條医院）、会員講師・太田貴志、市来英雄
- 2001.10.21 禁煙宣言採択
- 【調査報告】 ラバーダム使用に関する実態調査



2002年

- 2002.3.16-17 **前夜祭・第5回総会・国際シンポジウム**（砂防会館別館）

2. 歯を喪失する人からみえること

長期経過患者から学んだことの一つです。今のような診療を10年以上続けていると、定期的に来院されているほとんどの方はそれほど多くの歯を失うことなく過ごされています。しかし、残念なことに定期的に来院されているにも拘わらず徐々に（あるいは急激に）歯を失ってしまう方もおられます。その原因を考えてみると、①（必要な処置をおこない難い）全身疾患、②（疾患や放射線治療による）唾液腺障害、③（ホームケアができない）精神的な疾患や気質、そして、④ 来院時にすでに致命的な処置を数多く受けている人ではないか、と思います。①から③について、残念ながら私の診療室でできることは限られています。しかし、最後の、歯の喪失につながるような処置をおこなったのは私たちと同じ歯科医師であり、今後そのような方を増やさないようにすることがこの研究会の活動だと思います。

今でも保険制度も含めて修復中心の診療が続いているのは、“う蝕、歯種疾患ともにほとんどはコントロール可能な疾患である”との疾患の本質がまだまだ一般に理解されていないためではないでしょうか。ヘルスケア歯科研究会のロードマップにある「知らない」から「知っている」をもっと強力に押し進めるべきだと思います。

そのために、私たちに何ができるのでしょうか。私は、ヘルスケア歯科研究会の多くの会員診療室でのう蝕や歯周疾患をコントロールして歯の喪失を防ぐことができたことを示す、地道な臨床報告だと思います。

<最後に>

この10年の間にたくさんの会員と会って話をしました。そして、実践の方法は様々であっても共通するのは「疾患をコントロールする診療」をやりとげる「良心」だと感じます。もし、私がヘルスケア歯科研究会に関わらずに一人で診療していれば、自分のことだけ考えて毎日過ごしていたと思います。しかし、各地の多くの「良心」に触れることでここまでやってこられました。本当に感謝、感謝です。

とはいえ、「良心」を実践するためには非常に厳しい時代であることは事実です。それを乗り越えるためにも、多くの会員が地道な臨床報告を通じてこの研究会の「良心」をひろく発信してほしいと思います。いつか実を結ぶことを信じています。

もし、研究会が設立されていなければ

足本 敦（ワイエイデンタルクリニック・米子市開業 コアメンバー）

もし、10年前に本研究会が設立されていなければ、ワイエイオーラルヘルスセンターも現在の形にはなっていなかった

と思います。当時の私は大学勤務医という立場でしたが、この研究会との出会いを通して、そこからの歯科医療者としての方向性のある程度定めることができました。私のように本研究会から歯科医療に対する考え方について影響を受けた方は少なくないと思います。

そして、歯科界への思いについて、さまざまな部分で共感できる山中渉氏との出会いがあったこともあり、私どもの地域では珍しい共同経営という形で医療法人ワイエイオーラルヘルスセンターを2000年に設立することができました。現在でも山中渉氏からは歯科医療のみならず学ぶべきことが多々あり、大変感謝をしている次第です。

クリニックとしては、藤木省三さんが提唱されていた「データに基づく歯科医療」「疾患のリスクコントロール」「チーム医療」そして「メンテナンス」を実践しようと取り組んできて、来年にはクリニック開院から10年という節目を迎えます。3年前には祖父から続く私の実家でもある歯科医院を閉院して、兄も共同経営者に加わりました。クリニックは開院当初6室だった診療室が17室となり、歯科衛生士17名、受付・歯科助手8名、歯科技工士4名という比較的大きな所帯のクリニックになり現在に至っています。

これまでもこれから来院される方の口腔の健康の維持に貢献できるよう、さまざまな試行錯誤を繰り返し、進んでいくことと思います。そのときどきに日本ヘルスケア歯科研究会から影響を受けたり、自分たちのクリニックで得られた情報を研究会にフィードバックしたりすることで、より良い歯科医療が実践できればと思います。

叶うことなら、コアメンバーに新しい風が吹き込まれ、もっと研究会が活性化されるよう新たなメンバーが加わってくださることを切望しています。一緒に歩いていける方いませんか？

熱い思いと不安を抱えた日々から10年

杉山精一（杉山歯科医院・八千代市開業 コアメンバー）

雪が降ったばかりの寒い1998年3月、日本教育会館で日本ヘルスケア歯科研究会設立総会が開催されてから10年が経ちました。当時の私の医院は、院内のシステムをヘルスケア型に転換してから3年目、まさに悪戦苦闘中といった状態でした。1996年に院内改装、歯科衛生士を増員するために採用して研修、毎月院内のシステムの修正、そしてスタッフと共に研修会に参加。私の思いは熱く、そして同じ思いをもった先生との出会いに刺激を受けてさらに熱く、という日々でしたが、心の底では「はたして本当に結果を出せるのか？」という不安を抱えながら過ごしていました。主訴が「痛い、噛めない」などでしたら、治療終了と同時に結果がわかります。し



第5回国際シンポジウム前夜祭 歯科衛生士とスタッフのお祭り広場

かし、「子どもを歯で苦労させたくない。先生何とかありませんか！」という親の要望に応えるには長い年月が必要です。

私がこの研究会に参加して得た最も大きな成果は、「来院者すべての臨床記録をきちんと整理して、時間の経過で診査診断できるようにする」このことの重大さを知り実際に自分の医院で実現することができたことです。一見すると口腔内写真撮影など、従来からあった「症例報告」と同じように思いますが、来院者すべての記録を取ることによって、その症例の位置づけがはっきりし、症例を謙虚に評価することができるようになります。そして臨床記録を来院者とスタッフと共有することが可能となり、このことが「長期間信頼感をもってお付き合いできる関係」の一番大事な基礎となっています。

「長期間信頼感をもってお付き合いできる関係」を維持するには当然医院の継続が必要です。増加するメンテナンス者にもいつでも対応できるような診療設備、スタッフが必要です。特にスタッフが長期間勤務を継続できる環境整備がとても大事です。私の医院では2名の歯科衛生士といっしょに10周年を迎えることができました。(写真1) また、私の医院から離れましたが、現在は家庭で子育て中の正会員歯科衛生士もいます(写真2)。受付は準会員ですが、10年以上勤務しています。技工所、歯科材料店も同じところとお付き合いが続いています。「継続は力なり」なんてどこかで聞いた言葉ですが、大事なことだと実感しています。



招待講師のボッケルブリック氏(右)

第6回国際シンポジウム



カリエスリスクと唾液学
特別講演・Prof. Jorma Tenovuo (フィンランド・トゥルク大学教授)
招待講師・野村義明 (国立感染症研究所), 会員講師・熊谷崇

2002.3.30-31 ~ 東京基礎コース (第3, 4, 5, 6回)

2002.3.30 東京実践コース (第1, 2回)

2002.4.14 関東支部設立講演会 (abc 会館ホール)

【調査研究】 唾液分泌に影響を与える薬物服用の実態調査開始

2002.10.27 第5回秋季学術講演会 (千里ライフサイエンスセンター)

Minimal Intervention 最小限の介入/最大限の患者利益

招待講師・千田彰 (愛知学院大学教授), 恵比須繁之 (大阪大学教授)・中原英臣 (山野美容芸術短期大学教授), 西川義昌 (東京都開業・歯科医師), 会員講師・熊谷崇, 村松いづみ

【調査研究】 歯科医院リスク分析アンケート調査

2003年

2003.3.1 会則大改正 (役員・総会・評議員会・運営委員会の廃止, コアメンバー会議設置)

2003.3.8-9 前夜祭・第6回総会・国際シンポジウム (東京国際フォーラム)

患者の生涯を考えた治療介入と予防的ケア
歯科医療の未来形

一予防ケアに軸足を置いた診療のマネジメント

招待講師・Dr. W. Bockelbrink (ドイツ・開業歯科医師) 会員講師・千ヶ崎乙文, 秋元秀俊

患者の生涯を考えた補綴的治療介入とリスクコントロール

招待講師・本多正明 (大阪・開業歯科医師), 藤本順平 (東京・開業歯科医師), 会員講師・熊谷崇, 岡賢二

2003.4.12 ~ 東京基礎コース (第7, 8回)

2003.7.5-6 第1回認証ミーティング (建築会館ホール)

健康を守り育てる歯科診療所の認証制度スタート

歯科衛生士卒業教育プログラムスタート

2003.8 前夜祭・第6回秋季学術講演会 (東商ホール)

バイオフィルム感染症を理解する

招待講師・花田信弘 (国立保健医療科学院口腔保健部長), 石原和幸 (東京歯科大学助教授), 会員講師・三辺正人

2004年

2004.2.8 前夜祭・第7回ヘルスケアシンポジウム (中野サンプラザホール)

歯周病の全体像と歯周治療学の<幹>

招待講師・Prof. J. M. アルバンダー (米テンブル大学教授), 村上伸也 (大阪大学教授), 会員講師・伊藤中

2004.4.17 ~ 東京基礎コース (第9, 10回)

2004.5.9 第2回認証ミーティング

2004.7.19 第3回認証ミーティング

2004.10.16-17 前夜祭・第8回ヘルスケアシンポジウム (東京国際フォーラム)



写真 1



写真 2

なんとか自分の医院は、ヘルスケア型の診療システムになり、結果も確認できるようになってきました。

しかし、ここでストップしてはいけません。

ヘルスケア型診療は住

民に大きな利益をもたらします。歯科医療はこの10年変わったでしょうか？ 予防が大事と認識する医療人は増えました。フッ化物利用も増えました。疾病構造も徐々に変わってきました。しかし、歯科保健と歯科保険制度はまったく変わっていないように思います。歯科大学の教育も変わっていないのではないでしょ

うか。私の医院は研修協力施設で、研修医が来ますが、私の医院のようなシステムを知るのも初めて、初期キャリアの治療方針も従来のまま、歯周治療は少し改善？ このような状況です。昨年のオピニオンメンバー会議では、強いリーダー待望論がありましたが、私はこのような期待をしては、何も変わらないと思います。他人頼みでは何も変えることができないことに多くの人が早く気づいてほしいのです。

私は、医院の成果を少しずつ確認することができるようになって、地域の歯科医師会の公衆衛生担当理事をやる機会を得ました。医院から外へでみるとまだまだ多くの人が歯科のことで悩んでいる現実を目の当たりにしています。少しずつですが、地域の中で、保健センター、教育委員会などと連携をとりながら、地域の歯科保健システムの改善に取り組んでいます。このような地域活動では、多くの方に「地域の現状と問題点」を客観的に理解してもらい、異なる職種の人が共通理解を得ることが大事だと感じています。そしてトップダウンではなくて現場の声を大事にして、専門知識をふまえた判断をしていくことが必要です。この過程で、医院の臨床経験を客観的に知っておくことがとても役立ちます。地域を変えて成果を出すには10年はかかるような気がします。しかし、自分の医院の結果に満足して閉じこもっていたら何も変わりません。

次の10年へ何を目標としたらいいか？ 実は、この会の解散が会の目標です。研究会が活動しなくても、当たり前のことになったら研究会は解散できます。私は現在の歯科医師全員がヘルスケア型診療を実行する必要はないと思います。全国の歯科医師の10%が実際にヘルスケア型診療を実施したら急速に変化がおきると思っていますが、まだまだそのレベル

には達していません。

このような目標を達成するためのロードマップ（ニュースレター vol.8, no.3に掲載）は、すでに示されています。この先の10年、どれだけ多くの人がある道を選択して一緒に走ることにかかっています。

自分がこの仕事をリタイアした時に、納得できるよう

米谷敬司（米谷歯科医院・船橋市開業）

私の医院では約10年前、当時勤務していた歯科衛生士2名と大阪の基礎コースへ参加した後、ヘルスケア型診療室へ転換する取り組みを始めました。

この決断は正解だったと思いますが、はっきり言って今現在も色々な意味でしんどいです。しかし、一度きりの人生なので、自分がこの仕事をリタイアした時に、それまで行ってきたことに納得できるよう、今後も努力していくつもりです。この会に同じ志の仲間が多くいることは大変心強いです。またスタッフをはじめ、日頃より医院を支えてくださっている方々に感謝しております。今後もよろしくお願い致します。

結果は後からついてきます

鈴木正臣（医療法人 鈴木歯科医院・蓮田市開業）

私たちは長い間、歯の痛みを取り、精度の高い補綴治療を提供することが歯科医療だと信じてきました。その結果、歯科医師として高く評価される一方で、出来ることなら受診したくないという歯医者嫌いの患者さんをつくることになりました。

このような状況の中で、10年前、当医院が日本ヘルスケア歯科研究会に入会し、治療中心から健康を守り育てる歯科医療に転換することを決断しました。

そのきっかけは、熊谷 崇先生の実践コースに参加して感動したためです。背景には患者数が減少し続けてきているという現実と、後継者ができ、将来に明るい夢と希望を持たせてあげたいという強い思いがありました。

しかし、転換したからといってすぐに結果が出るほど甘くはありませんでした。私のように開業暦が長ければ長いほど時間がかかります。院長がその気になってもスタッフを育て、患者さんの意識を変え地域に定着させることは大変なことです。

入会から4年後の2002年、河野正清さんに出会い、同じ志を持った仲間と関東支部の結成に参加したのをきっかけに、ヘルスケア型診療所づくりの心構えを改めて学び直しました。

会を通じて、医院のデータ作りが大切であること、初めに疫学があり、病因論があって予防、治療へと進む歯科医療があるべき姿であることを再認識しました。そして、これを着



ヘルスケアデンタルショー（第8回ヘルスケアシンポジウム併催）



第9回ヘルスケアシンポジウム

実に実践し、継続することが重要だと痛感しました。

問題点が改善するに伴いメンテナンス患者さんが少しづつ増え始め、感謝の言葉や笑顔に接する機会も多くなり、考え方にも変化が起こってきました。患者さん利益の発想により経営不安が減少し、自信とゆとりが出てきたのです。

根気よく続けて行くに従い、新たな心も芽生えてきます。気持ち明るく前向きになって、スタッフの重要性や大切さも分かってきました。更に嬉しいことに患者さん利益のための設備投資をする勇氣も出てきたのです。まさに仕事を通して心が磨かれるとはこのことだと思います。

10年目を迎えた現在、私の最大の目標はスタッフの育成です。しっかりした理念とスキルを持ったヘルスケア認定歯科衛生士を一人でも多く育て、共に社会貢献して行きたいと考えています。

私は45年間、試行錯誤しながら努力してきましたが、やっと自分が納得できる歯科医療に出会えました。毎日が楽しく、心身共に健康を保ち、生涯現役で働く意欲も湧いてきました。健康志向の今日、一人でも多くの先生が一日も早く、将来に希望の持てる新しい「健康を守り育てる歯科医療」に転換されることを願ってやみません。結果は必ず後からついてくると確信しています。



歯科衛生士育成プログラム（第1期）



基本的な歯周治療の実践

—リスク評価に焦点を当てて—

招待講師・横田誠（九州歯科大学教授）

服薬と唾液シンポジウム

招待講師・望月真弓（北里大学教授）、斎藤一郎（鶴見大学教授）、野村義明（鶴見大学講師）

2005年

2005.1.23 【調査事業】 ファシリテータトレーニング（東京八重洲ホール）
全国学校歯科健診 永久歯のう蝕状況調査（2005年調査）

2005.3.19-20 第9回ヘルスケアシンポジウム（都市センターホール）



データから地域保健を考える

招待講師・新庄文明（長崎大学教授）、丸山進一郎（日本学校歯科医会）、斎藤純一（山形県開業）、植木順子（養護教諭）、菱沼範子（養護教諭）、井下英二（滋賀県大津健康福祉センター）



「結果」の出せる診療所／「結果」を活かす地域保健

特別講演・Prof. D. Bratthall（スウェーデン マルメ大学）

2005.3.21 第1回診療所づくりミーティング（電通共済会館）
2005.4 「退会にあたって（熊谷崇）」公開

2005.5 コアメンバー会議の公開（毎月開催）開始

2005.6 研究会活動のロードマップ作成

2005.7.10 第1回スタッフミーティング（電通共済会館）

2005.10.1-2 前夜祭・第10回ヘルスケアシンポジウム（東京国際フォーラム）

健康を守り育てる歯科医療へのパラダイムシフト…ヘルスケア型診療所の課題と問題点…

会員講師・藤木省三、杉山精一、足本敦、河野正清、齊藤仁、鈴木正臣、近藤明德、千ヶ崎乙文

2005.10 会則改正に伴いオピニオンメンバー募集

2005.10.1 正会員歯科衛生士の集い（東京国際フォーラム）

2005.12.3-4 東京基礎コース（第12回）

2006年

2006.4.2 歯科衛生士シンポジウム（東京ウイメンズプラザ）
感じる歯科衛生士・考える歯科衛生士

招待講師 多田京子（保健師）

2006.4.16 第1回オピニオンメンバー会議

2006.4.23 第4回認証ミーティング

2006.5 【調査報告】 歯科医院における禁煙支援の実態調査報告

2006.6 Doプロジェクトスタート

【調査研究】 歯科診療所における初診来院患者の実態調査

【調査研究】 診療機関における子どもの定期管理のう蝕予防成績に関する調査

【調査研究】 歯科診療所での成人のメンテナンスと歯の喪失についての調査

【調査研究】 口腔関連 QOL 調査

2006.7.9～ 基礎コース（1日開催とし費用を1/4に下げ、東京1回、大阪1回）

2006.7.29～ 歯科衛生士育成プログラム第1期スタート

初心を忘れず

後藤 諦（ごとう歯科医院・守山市開業）

開業以来 25 年、当初から丸森賢二先生の考え方に共鳴し「治療より予防が大事」と頑張っています。わが守山市では 10 数年前からフッ化物洗口を 4 歳児～小学 6 年生対象に実施することができ、この 10 年余りで市内の小学生全体では、一人当たりのむし歯本数が 82 % 減少し、またむし歯のない学童数が 70 % 増加しました。北欧各国の子ども達に遅れること 20 年で実現した数字です。8020 をめざして守山市フッ化物洗口実現に向けて協議を重ねた、15 年余り前の初心を忘れず、未だ実現していない中学校でのフッ化物洗口に取り組んでいこうと考えています。医院においても「削ってつめる」が不要となり歯科衛生士の予防業務だけが医院全体の仕事になるようにとの初心を、一日でも早く実現していきたいと願っています。

一方、幸い子どものむし歯は減少していますが、アゴの発育が不足し、歯並びや噛み合わせの異常を生じている子どもさんの来院が年々増加しています。矯正による解決は、単に歯並びを良くするだけでしかないことも多くあります。幼い頃からの噛み合わせ育成指導により、咀嚼機能の発達をうながし、アゴの発育をうながすことで、できるだけ歯を抜かず不正咬合を改善する診療に取り組んでいます。

歯科医 50 余年、人工物は自然を超えない、予防に勝る治療はない

日野完夫（日野歯科ナンバ診療所・大阪市開業）

84 歳で父が亡くなってもう 24 年になる。私が幼少の頃、歯科医師であった父から日々厳しく躰けられたものの一つは朝晩必ず歯を磨くことと、間食は必ず午後 3 時と定められていたこと。また食事はよく噛んで食べる、夜は 9 時迄に寝ること等。良き習慣として今と変わらぬことが 70 年前にすでに言われていた。むしろ当時は科学的エビデンスによるものではなく、貝原益軒等故人の教訓と経験によるものであったろう。お陰で 76 歳の現在も全て天然の歯で毎日おいしく食事をしている。歯科医を 50 年余り続けてきた中で、人工物は自然を超えることはできない、また予防に勝る治療はないと、三次予防よりは二次予防、二次予防よりは一次予防が大切と患者に話してきたが、メタボリック症候群を含め大半が生活習慣の乱れによる生活習慣病である。

生活習慣は患者自身が作るものである。悪しき習慣はなかなか変え難い。健康を守り育てる歯科医療に接し大いに賛同し、幸いにして学校歯科医である私は、三つ子の魂百迄と、児童、生徒の自立的及び自律的健康観を育てるのに努力している毎日である。

「ほんとうの意味」で患者中心の医療が始まった

秋元秀俊（事務局サポーター・ジャーナリスト）

「医療崩壊」と名付けられた急性症状を示しながら、わが国のヘルスケア分野（医療からリハビリ・介護・福祉まで）は、医療提供体制、診療報酬、など、あらゆる面で大きく変化している。その中で、受け身の変化しか見せていない分野が、歯科医療分野である。（この種の話は、『コップの外の嵐』というインターネットのコラム* に書いているので、ぜひそちらを参照していただきたい）

わが国の歯科医療関係者の状況認識は、おそらく歯科中心的で、しかもこの分野を左右するキャスティングボードを預かっているという自覚や責任をもって行動する人が極めて少ない。歯科医以外に誰も、歯科の医療制度改革を考えようとする人などいないというのに、いつも歯科医は不満を言う側と決まっている。

そのような中で、日本ヘルスケア歯科研究会は、この分野の医療がどのような固定観念にとらわれてきたか、どのような制度的制約に縛られ、社会性を失っているかという厳しい自己認識をもって設立された（疑問のある方は設立趣旨を今一度お読みいただきたい）。健康維持を目標にする、そのために住民と患者と歯科医院のスタッフと、そして歯科医師が、同じ課題について同じ方向を向いて考えることができる、ほんとうの意味で「患者中心の医療」を目指す運動が始まったのである。

これは、歯科医師会はもちろん、どんなスタディグループも学会も、なしえなかった活動である。患者と住民、そして医療関係者が、同じ方向を向いて考える、これこそは、現代の医療が向かう大きな流れであると思う。

しかし、この研究会に集うだれもが、この分野の改革の責任を自覚しているかと言えばそうではない。このため設立以来、様々な曲折があった。大きな課題の度に揺れ動いたと言ってもいいくらいだ。探針使用問題、会員支援のあり方、会員への情報公開、カリエスリスク検査の位置付け、認証基準、フッ素洗口、歯科衛生士育成、診療所マネジメント… 枝葉は多様でいいはずだが、つつい熱心さの余り、枝葉について厳格になると、患者と医療関係者が同じ方向を向いて考えるという、この研究会の根幹がいつの間にか危うくなる。そういう曲折を繰り返して 10 年を経た。

「患者中心の医療」について「ほんとうの意味で」と書いたが、実際のところ、このキーワードは、セールストークとして氾濫してしまい、医療分野ではすでにほとんど意味を失っ



48,588 筆の署名、陳情趣意書を厚生労働省の瀧ヶ平仁大臣付に手渡す

ているので、認識を新たにさせていただくため、ひとつのヒントを紹介しておく。

「患者の権利」と言うとき、「良い医療を誰もが平等に受ける権利」と「医療を拒む権利」のどちらが重要で、根源的だろうかと考えていただきたい。

最近、翻訳出版された米国医事法学の権威ジョージ J. アナスの『患者の権利（第3版）』では、米国には「医療を受ける権利」はないが、もっとも根源的なのは「医療を拒む権利」であると書かれている。不適切な医療介入を拒む権利のことである。たとえば、歯科で言えば、初期う蝕であるとか、かみ合わせの不具合だとかをイメージしていただくといい。

社会保障の貧困な米国ならでは、「患者の権利」という概念が鮮明である。患者の自己決定ということ考えたとき、「医療を拒む権利」の重みを改めて感じさせられる。「患者中心の医療」とは、患者の自己決定を最大限に重視する医療である。

* ヘレウスクルツァー ジャパンのホームページに連載中の「コップの外の嵐」

<http://www.heraeus-kulzer.co.jp/customer/special.html>

2006.11.18-19 ヘルスケアミーティング 2006 (砂防会館別館)
1 日目 テーブルクリニックなど多数
2 日目 私たちは日本の歯科疾患の疾病構造を変えることができるか？ その戦略を考える
招待講師・花田信弘 (国立保健医療科学院口腔保健部長), 安藤雄一 (同口腔保健部), 内藤徹 (福岡歯科大学教授), 会員講師・杉山精一, 秋元秀俊

2007 年

【調査研究】 歯科診療所における初診来院患者の実態調査

【調査研究】 口腔関連 QOL 調査

2007.2 POEM (患者さんへの調査情報フィードバック) 刊行開始

2007.3.11 ~ 基礎コースを改め、ワンデーセミナー (広島, 札幌, 名古屋) スタート

2007.2.25 第 5 回認証ミーティング

2007.4-5 歯科衛生士法の改正を求める陳情署名 (48,588 筆) 厚労大臣に提出 (提言書を日本歯科医師会会長, 日本歯科衛生士会会長に提出)

2007.7.15-16 ~ 歯科衛生士育成プログラム第 2 期

2007.10 会員診療所インターネット検索開始

2007.11.10-11 ヘルスケアミーティング 2007 (東京商工会議所)
20 歳までに歯科が責任をもつべきことは何か？
シンポジウム 住民のための 20 歳までの指針づくり
招待講師・内藤徹 (福岡歯科大学教授), 吉田真一郎 (箕面市開業), 豊島義博 (第一生命日比谷診療所)
患者の生涯の健康を考えるミニマルインターベンション
招待講師・月星光博 (愛知県開業)



本会催しもの 案内

第 6 回「健康を守り育てる診療所」認証ミーティング

日 時：2008 年 7 月 13 日 (日) 午後 2:00 ~ *

会 場：東京歯科大学 水道橋血協記念ホール (東京・千代田区)

うつぎざき歯科医院 (檜崎慶二 水戸市)

医療法人ワイエイオーラルヘルスセンター ワイエイデンタル (山中 涉 米子市)

てらだ歯科クリニック (寺田昌平 姫路市)

認証診療所は、ホームページの診療所検索で明示しています。また認証の更新については、Do プロジェクト調査 1 (初診患者データ) へのデータ提出を条件とし、2 年以上にわたって初診患者データの提出がない場合には認証の資格を喪失することになります。

* 一般聴講料：2,000 円 (当日受付有)

* 同日午前にはオピニオンメンバー会議開催予定 午前 10 時 ~ 12 時 30 分 (東京歯科大学水道橋校舎 会議室)

医療情報を患者と専門家が適切に共有する… 世界の趨勢

〈口腔保健に関する〉コクラン・レビュー・アブストラクトの日本語版公開について

豊島義博（第一生命保険相互会社・日比谷診療所主任診療医長）

1 コクラン共同計画

コクラン共同計画（The Cochran Collaboration）は、1992年にイギリスの国民保健サービス（National Health Service: NHS）と略す、日本の厚生省と社保庁を合体したような組織）の事業として始まりました。故アーチボルト・コクラン（内科医）の、臨床試験で確かめられた治療法を患者に提供したいと願い続けた意思を継いでいます。彼は、第二次世界大戦中より、当時は正しいと信じられた治療で目の前の患者が悪化し死亡することを体験していました。以後、彼は臨床試験を重視して診療を行うことを提唱しつづけたのです。現在の歯科診療でもそうですが、きちんとした臨床試験の成果が無いのに治療法として行われていることは多いのです。臨床試験の成果を医療に生かそうというコクランの思想は多くの賛同を得、コクラン共同計画として結実しました。現在、世界的に協力体制が生まれ、治療、予防に関して効果を確認していくプロジェクトとなっています。具体的には、世界中のランダム化比較試験（randomized controlled trial: RCT）を中心に、臨床試験（clinical trial）を集めてデータベース化し、更にシステマティック・レビュー（systematic review; 臨床試験の質を評価し、結果を統合して再現性、客観性の高いレビューを作る）を作成しています。これが、コクラン・レビューです。

コクラン・コラボレーション

<http://www.cochrane.org/>

レビューの著作権は WILEY 社が、管理しています。



コクラン・ライブラリー

<http://www3.interscience.wiley.com/cgi-bin/mrwhome/106568753/HOME/>

ここのレビューは有料ですが、abstract（要約）は無料で読めるようになっています。



各専門医学領域で、作成グループが作られています。歯科関係は Oral Health Group が担当しています。

<http://www.ohg.cochrane.org/>

<http://www.ohg.cochrane.org/reviews.html>

Oral Health Group には全てのレビューのアブストラクト（要約）の他に、現在取り組まれているタイトルや、今後予定されているものも公開されています。



CCNET（コクラン・コンシューマーネット）

<http://www.cochrane.org/consumers/homepage.htm>

コクラン・ライブラリーのレビューは世界中の誰もが利用できるように配慮され、医療従事者だけでなく患者、消費者が利用しやすいように工夫したネットワークも作られています。また、消費者の代表もコクラン共同計画には参加しています。医療者と消費者が、医療情報を適切に共有するというのは世界の趨勢です。



2 「コクラン・レビュー」の日本語訳（歯科関係）

4月1日より「Minds」(http://minds.jcqhc.or.jp/ 日本医療機能評価機構が運用)に口腔保健に関するコクラン・レビュー80編のAbstract(要約)の和訳が公開されました。コクラン・ライブラリーの著作権を保有するWILEY社は日本語の著作権を全てMindsに委託しています。

コクラン・オーラルヘルス・レビューを継続して翻訳していこうというボランティアグループ, Japanese Collaboration for Oral Health Review (JCOHR:ジェイ・コール)により翻訳作業が完了し, Mindsに掲載されました。

「Minds」は日本の診療ガイドラインを集めて公開する計画で, 日本医療機能評価機構が運営しています。残念ながら, ガイドライン収集の基準が不明瞭であり, 歯科に関しては収集が遅れているのが現状です。

(医科系ガイドラインは, 約50の疾患について診療ガイドラインとともにコクラン・レビュー・アブストラクトの日本語版が公開されていますが, 歯科疾患に関してはこれまで和訳はありませんでした。また, 医科系疾患も必ずしも網羅的に全てが掲載されているわけでもなく, また最新版でもありません。)

コクラン・レビューへのアクセスの手順を以下に示します。

① 「Minds」を開く (http://minds.jcqhc.or.jp/)。

② 画面左の「ゲスト」をクリック。

※ 「Minds ユーザー」でも可 (登録手続きが必要です: 無料)



③ 次画面で「了解する」をクリック



④ 次画面の人体図から「歯科」を選ぶ (右上にあります)



⑤ 次画面の「MindsPLUS / 医療提供者向け」をクリック。80のレビューの概要 (abstract) の和訳を読むことができます。



※ゲストでは一覧表示までしか読むことができません。概要を読むには Minds ユーザー登録が必要です。

3 こう使おう コクラン・レビュー

ともすれば、こういうレビュー（総説）は結論だけを見て利用しがちです。しかし、多くの臨床課題にはいつも適切な研究があるわけではなく、曖昧な結論しか出せない場合が多いのです。ですので、各臨床課題について、主な結果に書かれた論文数がどれくらいあるのか、結論が曖昧になっている理由は何故か、などを見ながら利用して欲しいと思います。コクラン・レビューでは「小児う蝕予防のためのフッ化物洗口」などのように、対象者の年齢や、フッ化物の使用方法などが

細かく分けられて評価されています。小児で効果的なら、大人でも効くというものではありません。小児を対象とした臨床研究の成果は、小児には使えますが、大人には使えるか不明です。同じことは、疾患の重症度についても言えます。年齢、性別、重症度、治療期間など細かなことを意識して読んでいただくと、コクラン・レビューの利用価値が高まると思います。



その他催しもの案内

東京ヘルスケアグループ主催 第4回スタッフミーティング

企画責任者：島田美映子、大島知佳、野村英孝、上田康弘
東京ヘルスケアグループ主催の第4回スタッフミーティングを開催いたします。

今回のテーマは…

『 …… 』～今日のテーマを決めるのは、あなた自身です！！

テーマはあえて設定せず、各々が自由に感じ取ってもらえたらと思っています。

発表内容は、

午 前：それぞれの職種を理解しよう～互いを見つめ合い、認め合おう～

午 後：勤続2年・7年・15年の歯科衛生士によるそれぞれの苦悩、やりがい、心の移り変わりなどを発表してもらいます。医院も職種も経験も違う仲間達と充実した1日を過ごしませんか？

皆さんの参加をお待ちしています！

日 時：2008年7月6日（日）10:00～16:30（予定）

会 場：川口市市民ホール フレンディア キュポ・ラ本館棟 4F

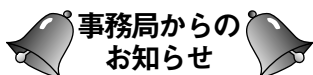
<http://www.friendia.jp/access.html>

定 員：120名

参加費：お一人8,000円（昼食代込み）

申し込み方法：歯科医院名・お名前・フリガナ・職種・経験年数・連絡先の郵便番号・住所・TEL/FAXを明記のうえ、メール（野村英孝 nomura@asunarooshika.com）またはFAX（あすなる歯科 027-283-7891）までご連絡下さい。

申し込みメ切は、5月31日（土）です。



会員診療所インターネット検索で、ヘルスケア歯科研究会認定衛生士のいる診療所に赤いヘルスケアシンボルマークを付けました。

認定歯科衛生士のいる診療所にはマークが表示されます。

診療所名	所在地	代表者名	代表者職
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長

診療所名	所在地	代表者名	代表者職
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長
認定歯科衛生士のいる診療所	東京都中央区	田中 健一	院長

詳細表示には、認定歯科衛生士欄が追加されました。

会務報告・会務案内

2007年度（2007年1月1日～12月31日）の決算について監事（鈴木正臣さん、コメンターになった田中正大さんに代わって承認された森谷良行さん）により、4月17日会計監査が行われ、適正な会計処理であることが確認されました。

収支計算書総括表

2007年1月1日から2007年12月31日まで

(単位：円)

科目	合計	一般会計	第一特別会計	第二特別会計	第三特別会計
【経常収入の部】					
入会金収入	387,000	0	387,000	0	0
会費収入	17,845,000	17,845,000	0	0	0
事業収入	12,308,350	0	0	8,027,800	4,280,550
雑収入	64,880	57,780	4,855	2,000	245
経常収入合計	30,605,230	17,902,780	391,855	8,029,800	4,280,795
【経常支出の部】					
事業費	24,447,106	8,632,828	789,474	10,128,646	4,896,158
管理費	8,599,287	6,359,526	70,126	1,414,002	755,633
経常支出合計	33,046,393	14,992,354	859,600	11,542,648	5,651,791
経常収支差額	△ 2,441,163	2,910,426	△ 467,745	△ 3,512,848	△ 1,370,996
当期収支差額	△ 2,441,163	2,910,426	△ 467,745	△ 3,512,848	△ 1,370,996
前期繰越収支差額	59,872,578	63,876,734	△ 1,616,322	△ 11,367,427	8,979,593
次期繰越収支差額	57,431,415	66,787,160	△ 2,084,067	△ 14,880,275	7,608,597

※以下の収支計算書は一部項目のみを抽出しています

一般会計収支計算書

2007年1月1日から2007年12月31日まで

(単位：円)

科目	2007年度	2006年度
【経常収入の部】		
会費収入	[17,845,000]	[16,765,000]
歯科医師	(16,303,000)	(14,645,000)
前年度	96,000	36,000
当年度	10,627,000	8,664,000
次年度	5,556,000	5,933,000
次々年度	24,000	12,000
歯科衛生士他	[792,000]	[540,000]
前年度	12,000	6,000
当年度	630,000	390,000
次年度	150,000	144,000
法人会員	(700,000)	(1,500,000)
購読会員	(50,000)	(80,000)
雑収入	[57,780]	[82,826]
雑収入	57,780	82,826
経常収入合計	17,902,780	16,847,826
【経常支出の部】		
事業費	[8,632,828]	[9,034,044]
会議費	1,537,701	1,762,466
通信運搬費	1,083,944	1,529,043
Newsletter制作	2,436,340	3,583,290
会誌制作費(2006年度)	2,497,138	0
研究協力費	236,250	0
HP情報管理運営	388,575	580,340
自主研究費	249,749	1,003,425
その他	203,131	575,480
管理費	[6,359,526]	[6,755,700]
事務設備費	665,561	579,584
事務用品費	128,437	133,565
印刷製本費	503,055	310,150
事務局費	4,365,435	4,531,946
その他	697,038	1,200,455
経常支出合計	14,992,354	15,789,744
経常収支差額	2,910,426	1,058,082

第一特別会計収支計算書

2007年1月1日から2007年12月31日まで

(単位：円)

科目	2007年度	2006年度
【経常収入の部】		
入会金収入	[387,000]	[395,000]
歯科医師	330,000	365,000
歯科衛生士他	57,000	30,000
雑収入	[4,855]	[81,980]
経常収入合計	391,855	476,980
【経常支出の部】		
事業費	[789,474]	[182,176]
印刷製本費	214,830	155,000
会員名簿	546,000	0
その他	28,644	27,176
事務局費	[70,126]	[88,315]
経常支出合計	859,600	270,491
経常収支差額	△ 467,745	206,489

決算は、赤字幅の圧縮ができたものの、収支差額で244万円の赤字を計上した。本研究会の会計は、一般会計と入会金会計としての特別会計の第一、講演会などの第二、企画商品販売など事業収入の第三に分かれるが、事務局人件費などの経常経費を各会計に案分しているため、実質的には一般会計の若干の赤字とヘルスケアミーティングなど催しものの欠損が、赤字要因となっている。

一般会計の経常収入は、前年比で伸びているが、これは納入時期のずれ（2006年末ニュースレター発行および会費請求の遅れから2007年当年度会費の事前入金が遅れ、会計年度内入金が増額）によるもので、外見上の増収で、会員は減少している。一般会計の経常支出は事業費のほぼすべてにわたって支出を圧縮したが、前年の会誌の発行が2007年に大幅にずれ込んだために前年比支出圧縮は80万円程度にとどまった。新入会員の減少から企画商品の売り上げ収入が年々半減しており、緊縮財政下の運営がつづいている。

第二特別会計収支計算書

2007年1月1日から2007年12月31日まで

(単位：円)

科目	2007年度	2006年度
【経常収入の部】		
事業収入	[8,027,800]	[9,470,500]
第4回認証ミーティング		615,000
第5回認証ミーティング	102,000	220,500
広島セミナー	741,000	0
札幌セミナー	663,800	0
名古屋セミナー	521,000	0
基礎コース(東京, 大阪)		1,875,000
ヘルスケアミーティング	2,496,000	3,638,000
	(2007)	(2006)
DH育成プログラム基礎	3,035,000	2,100,000
	(2期)	(1期)
DH育成プログラム検定	435,000	280,000
	(2期)	(1期)
その他	34,000	742,000
雑収入	[2,000]	[3,000]
経常収入合計	8,029,800	9,473,500
【経常支出の部】		
事業費	[10,128,646]	[13,315,109]
第4回認証ミーティング		1,230,016
第5回認証ミーティング	321,242	108,110
広島セミナー	645,560	0
札幌セミナー	787,052	0
名古屋セミナー	726,026	0
基礎コース(東京, 大阪)		2,257,199
ヘルスケアミーティング	3,107,112	5,587,960
	(2007)	(2006)
DH育成プログラム基礎(1期)	28,552	2,526,718
DH育成プログラム検定(1期)	4,846	679,681
DH育成プログラム基礎(2期)	3,392,059	0
DH育成プログラム検定(2期)	1,051,957	0
その他	64,240	925,425
管理費	[1,414,002]	[1,703,218]
経常支出合計	11,542,648	15,018,327
経常収支差額	△ 3,512,848	△ 5,544,827

第三特別会計収支計算書

2007年1月1日から2007年12月31日まで

(単位：円)

科目	2007年度	2006年度
【経常収入の部】		
事業収入	[4,280,550]	[8,207,845]
企画商品	(4,280,550)	(8,207,845)
PP版	298,500	1,154,000
小冊子	375,000	584,000
禁煙支援	329,050	576,200
ウイステリア Pro	759,000	1,666,000
アポイント管理職	168,000	671,000
健康手帳	1,585,000	2,596,500
POEM	276,800	0
その他	489,200	960,145
雑収入	[245]	[245]
経常収入合計	4,280,795	8,208,090
【経常支出の部】		
事業費	[4,896,158]	[7,604,888]
企画商品	(4,896,158)	(7,604,888)
PP版	131,250	459,250
小冊子	315,000	361,100
禁煙支援	180,600	258,750
ウイステリア	729,750	1,505,500
アポイント管理職	157,290	636,340
健康手帳	1,241,100	3,068,520
POEM	1,563,975	0
その他	577,193	1,315,428
管理費	[755,633]	[1,504,837]
経常支出合計	5,651,791	9,109,725
経常収支差額	△ 1,370,996	△ 901,635

ワンデーセミナー(広島2007.3.20 札幌5.20 名古屋7.8)

収入の部	広島	札幌	名古屋	支出の部	広島	札幌	名古屋
会員歯科医師	320,000	168,000	152,200	会場機材設営	40,335	57,639	185,838
スタッフA	210,000	206,500	199,500	広告宣伝費	84,865	88,653	175,013
スタッフB	30,000	18,000	18,000	講師謝礼・旅費	370,760	483,560	344,100
非会員歯科医師	120,000	120,000	120,000	印刷通信事務費	42,770	16,800	6,075
非会員スタッフ	61,000	46,000	31,500	弁当代	25,830	114,400	0
弁当代	0	105,300	0	入会割引	81,000	26,000	15,000
計	741,000	663,800	521,000	計	645,560	787,052	726,026
				収支差額	95,440	△ 123,252	△ 205,026

2007ヘルスケアミーティング収支計算書(2007.11.10-11)

収入の部	金額	支出の部	金額
会員歯科医師	950,000	会場機材設営	1,330,987
その他	660,000	広告宣伝費	381,150
非会員歯科医師	238,000	講師謝礼・旅費	680,670
非会員他	6,000	印刷通信事務費	186,370
学生	60,000	弁当代	19,965
法人展示	390,000	交通費	3,320
法人展示追加	16,000	懇親会代	306,000
懇親会費	176,000	人件費など	198,650
計	2,496,000	計	3,107,112
収支差額	△ 611,112		

歯科衛生士育成プログラム(2007.7.15-16,10.7-8,11.3-4/9.16-17)

収入の部	金額	支出の部	金額
基礎コース	3,000,000	会場機材設営	983,154
検定コース	250,000	広告宣伝費	107,310
オブザーバー	180,000	講師謝礼・旅費	2,940,080
再検定	40,000	印刷通信事務費	182,210
		交通費	135,660
		返金	129,000
計	3,470,000	計	4,477,414
収支差額	△ 1,007,414		





第3期生(2008年度)募集のご案内

歯科衛生士育成プログラム基礎コースにつきましては満席となりました。キャンセル待ちを希望される場合は、事務局までお問い合わせください。検定コースは受け付けています。受講ご希望の方は、事務局までファックス（用紙はニュースレター 11-1 にあります）にてお申し込みください。会員ホームページ、携帯サイトからも申し込み可能です。

検定コース

日程： 2008年10月12日(日)、13日(祝)
 受講費： 30,000円／歯科衛生士1名
 院長オブザーバー参加 10,000円
 会場： 新東京歯科衛生士学校



携帯から申込み可能です QRコードが読めない場合は、
http://www.healthcare.gr.jp/keitai_mail/ikusei.html へ

その他催しもの案内

1日で2度おいしい・2度楽しめる！ ハーフ&ハーフセミナー

【午前の部】9:30～12:30

わくわく！ワークショップ！

日々の臨床の疑問がスッキリ！そして新しい視点が満載！
 この日のためにスペシャルコメンテーターの方々がお越し下さり、
 フレッシュなDHプレゼンターの疑問をまるごと解決して下さいませ!!
 聞くだけでも、大満足。話したら大・大満足の症例検討会。
 この歯肉、何？こんな時、何を大切にしたら良いの？あるある！
 そんなこと！開催前から次はぜひ私も！と大反響！
 残念ながら今回は締め切りましたが、すでに次回開催決定！の検討会です。

参加資格：笑顔で参加できる方限定。

すべしやるなコメンテーター：豊島義博さん（第一生命日比谷診療所
 歯科医師）、浅田匡彦さん（LEC 最高経営責任者）、島田昌子さん（フ
 リーランス歯科衛生士）

フレッシュなDHプレゼンター：坂本 央さん（あすなろ歯科）、首藤亜
 衣さん（さくら歯科医院）、杉本絵美さん（鈴木歯科医院）、都丸香織
 さん（あすなろ歯科）、藤井知里さん（あすなろ歯科）、宮澤裕美さん
 （鈴木歯科医院）

【ランチョンセミナー】12:30～13:00

キムチさんによるICDAS 2の紹介

保険制度を変えてしまうかもしれない、最新カリエス診断について
 の超わかりやすい解説が聞けちゃいます！みんなで食べればきつ
 とおいしい！きっと楽しい！昼食付きです。

【午後の部】13:30～16:30

ガッテン流！伝える・伝わる！セミナー

テレビを見ていて、ついつい一緒にやってみたり、ついつい試して
 みたり、そんな体験、あなたにもありますよね？

来院者さんが、

ついつい、ブラッシングしてみたくなる。

ついつい、フッ素を使ってみたくなる。

ついつい、メンテナンスに来たくなる。

そんな伝え方のヒントが満載の数時間をご用意致します。こちらが
 どんなに大切に思う情報も、伝える努力をしないと伝わらない。た
 めしてガッテン！の伝説のプロデューサー・北折一さん。歯科衛
 生士学会の会誌でも大人気！そんな北折さんの講演を聞いて、ワ
 ークを体験できて、楽しめる!! ついに実現です！

日時：2008年6月15日(日) 9:00開場 17:00閉場

(終了後講師を囲んだ懇親会を予定しています)

費用：5,000円(昼食付)

会場：フレンジア <http://www.friendia.jp/>

埼玉県川口市川口1-1-1 キュポ・ラ本館棟4F

申込方法：メールでのみ受付

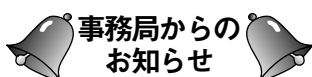
わたなべ歯科 nabedc@happy.memmail.jp 宛てに、

件名：セミナー申し込み*1

本文：受講者氏名 職業 受講証の送付先住所*2 懇親会の参加、
 不参加 を記入のうえ送信お願いいたします。メール送信後自動返
 信が行きます。そこに支払方法等が記載されていますので、必ずお
 読みください。

*1 件名が『セミナー申し込み』以外のものは受付確認ができません。

*2 1か所につき別途送料・代引き手数料がかかります。



当会ホームページの会員用IDとパスワードを変更します！

2008年7月7日(月)よりホームページの会員用IDとパス
 ワードを変更しますのでご注意ください。

また「会員診療所検索」利用時の「会員ログイン」IDとパスワ
 ードも新ID・パスワードに変更されます。

新ID・パスワードは次号(Vol.11 no.3)ニュースレター発
 送時に、2008年度会費をお振り込みいただいた会員の方へ「会
 員用IDとパスワード変更のお知らせ」を同梱しますので、そちら
 をご参照のうえ、ご利用ください。

日本ヘルスケア歯科研究会コアメンバー会議

コアメンバー会議報告 18

開催日：2008年4月20日（日）午前10時～午後1時

出席者：足本 敦、伊藤 中、河野正清、斉藤 仁、杉山精一、田中正大、成田信一、藤木省三

事務局：秋元秀俊

この日は、午後には出版社と「ヘルスケア型の診療が歯科診療をどのように変えたか」について、打ち合わせる作業があったため、午前中のコアメンバー会議は、主にヘルスケアミーティング企画案を確認するにとどまった。

1. ヘルスケアミーティング 2008 について

司会：藤木

河野：講師謝礼についての確認。会員の発表は、1時間以内が1万円。ワンポイントレッスンは1ブースにつき1万円（講師グループ参加者3人まで参加料免除）、外部講師は1時間3万円。

成田：岩淵さんの講演内容について。スタッフのモチベーションを高める話で、「なぜ、仕事をするか」考えてもらうテーマだが、語りただけだと飽きてしまうかもしれない。

田中：モチベーションが一時的に高まって維持することが難しいので、フォローアップのためのプログラム（掲示版、メーリングリストなど）を工夫する必要がある。

斉藤：岩淵先生の話のなかにフォローアップ方法を入れてもらうことはできないか？

成田：継続的に意識を高める学習環境づくりについて、何かお願いしたい。

秋元：ステップアップガイドに医院名をプロットして、達成医院名をメールで送るような。

斉藤：達成度の番付なども面白い。

田中：仲間といっしょにステップアップする仕掛けを禁煙マラソンなどを参考に工夫したい。実際にフォローアッププログラムに載る人は少なくても、そのようなかたちをつくりたい。否定する人はいないだろう。

斉藤：裾野を広げていくことに、やる意義がある

成田：認証まで結びつけ、成功モデルを見えるかたちにつくる必要がある。まったく普通の会員が認証を取るためのステップをつくる必要がある。

河野：この議論を踏まえて成田さんに検討していただきたい。

田中：ワンポイントレッスンの企画進行状況について（詳細略）。

※ブース毎の細かいタイムテーブルを各コーナーおよび総タイムテーブルとして作成・掲示する。

斉藤：2009年の計画について。今回はスタッフトレーニングで良いが、3年は続けられない。

田中：今年のフォローアップについての企画は全体の数分の一。たとえば、フォローアッププログラム参加者の集いのように。

斉藤：ロードマップの弱いところに力を傾注すると同時に、集客も考慮すべきだ。

藤木：会員向け教育の、今回はステップアップ、来年は10年選手の実績組の成果発表としたらどうだろう。

河野：10年振り返って臨床の成果、地域貢献を報告する価値はある。展示、ポスターセッションについて。とくに展示募集については希望全社参加の方向で進め、参加希望が多い場合には、1社のスペースを狭くしてでも希望法人の参加を受けられる方策を講ずるべきだ。

2. ワンデーセミナーの広報

前回のニュースレターにチラシを入れなかった和歌山、滋賀、愛知など周辺府県に入れる。商店にも協力を求める。

3. その他

歯科衛生士育成コースの会場に若干の不安要素がある件。

会誌進行状況報告。

認証ミーティングについて、外部審査員の評価項目を限定的にすることの確認。

ニュースレターについて。

コアメンバー会議 予定

6月のコアメンバー会議

日 時：2008年6月1日（日）午前10時～午後4時

会 場：東京八重洲地下街・八重洲倶楽部の予定（傍聴可）

禁煙支援部会から



～禁煙まめ知識～

タスポ (taspo)

歯科衛生士 馬場亜紀 (たかぎ歯科医院)

2008年3月より、地域ごとに順次、未成年者の喫煙防止対策の一環として、『成人識別たばこ自動販売機』が導入されています。この自動販売機を利用するためには、成人のみに発行されるICカード(タスポ)が必要です。タスポを申し込む際には、運転免許証や各種健康保険証、住民票などの本人確認書類のコピーが必要です。

以前に比べるとタバコの購入が容易ではなくなりますので、未成年者に限らず、禁煙を考える機会になればいいと思います。

タスポは顔写真つきですが、自動販売機がカードと本人を確認できるわけではありませんので、カードの貸し借りや未成年者が保護者のカードを持ち出して使用することも考えられます。また、タスポだけでなく、運転免許証も自動販売機で認識できるように改良(「良」なのか疑問ですが)するというニュースもあり、今後の動向が気になります。



ニコチンパッチ

歯科衛生士 永山めぐみ (たかぎ歯科医院)

ニコチンパッチは、これまで医師による処方が必要でしたが、OTC化されることが決まりました。OTCとは「Over The Counter」の略で、街の薬局のカウンター越しに売られる薬、つまり市販薬のことを指します。ニコチンパッチを患者さんが薬局で購入できることとなります。実際の販売は、薬事・食品衛生審議会での正式承認後になるので、今年後半くらいになるといわれています。

これまでの医療用のニコチンパッチ(ニコチネル TTS®)も残りますが、OTC薬としてのパッチは3社から販売される予定です。いずれの製品も医療用よりニコチン含有量が低く設定されています。ニコチネルでいえば一番大きいサイズのパッチは今までどおり、医師の処方が必要です。

ニコチン依存度が高い患者さんには、やはりサイズの大きいものからの使用が必要ですので、禁煙開始時は医療用を、喫煙欲求が少なくなってきたらOTCの小さいサイズを患者さんが自分で選択するというように、うまく医療用とOTCを使い分けていくことが必要でしょう。

患者さんが薬局で手軽にニコチンパッチを購入できるようになり、今後禁煙支援がますます普及していくと思われます。私たちはそれに伴い、いつでも正しい知識と情報を患者さんに提供し、一人でも多くの患者さんが禁煙に成功できるよう支援していかなくてはならないと考えます。



バレニクリンについて

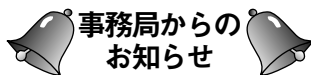
歯科衛生士 永山めぐみ (たかぎ歯科医院)

バレニクリンとはニコチンを含まない経口禁煙補助薬です。海外ではすでに発売されており、医師の処方により服用ができます。日本でも今年に入ってから、厚生労働省の承認を受けました。

喫煙者がタバコを吸うと、ニコチンが数秒以内に脳に到達します。ニコチンはニコチン受容体と結合し、タバコによる満足感を生み出します。得られた満足感はその後急速に弱まり、喫煙したい欲求と離脱症状に代わります。これがニコチン依存のしくみです。

バレニクリンは選択的ニコチン性αセチルコリン受容体の部分作用薬で、ニコチン受容体に結合し、喫煙したい欲求とニコチンからの離脱症状を緩和します。また服用中にタバコを吸うと、バレニクリンの持つニコチン受容体を遮断する作用によって、喫煙によって得られる満足感を抑えるといわれています。

バレニクリンはニコチンガムやニコチンパッチのようにニコチンを含まないもので、これらの禁煙薬である、妊婦、脳心血管疾患の急性期、重篤な不整脈、ニコチン製剤の過敏症の場合にも服用が可能です。私の診療所の患者さんでも、ニコチンパッチの使用により皮膚がかぶれてしまった方が何人かいらっしゃいましたが、そのようなケースに使えたらいいなあと思っています。しかし、服用後に興奮・抑うつ状態、異常行動、精神疾患の悪化などが報告されており、副作用についての懸念もなされているようです。(歯科においては当面保険適用外となりそうです。)



●会員登録内容の変更について

住所、電話番号、ファックス番号、e-mailアドレス、準会員等の追加・変更がありましたら、事務局までファックスもしくはe-mailでお知らせください。

Fax: 03-3260-4906

e-mail: center@healthcare.gr.jp

事務局は月曜日から金曜日までの午前9時30分から午後5時30分までスタッフが常駐しています。お電話は時間内をお願いします

現在の会員の構成(4月30日現在) 会員合計 4,975名

正会員		準会員	
歯科医師	1,401名	歯科衛生士	2,894名
歯科衛生士	125名	歯科技工士	92名
歯科技工士	1名	その他	418名
その他	8名	準会員計	3,404名
学生	1名		
法人会員	35社		
正会員計	1,571名	認定歯科衛生士	29名

書 評

『別冊歯科衛生士 う蝕・歯周病予防のための リスクアセスメント&コン トロール』

著者；景山正登
出版；クインテッセンス出版
2007年12月
定価；4,515円(税込)

渡辺 勝 (春日部市開業)

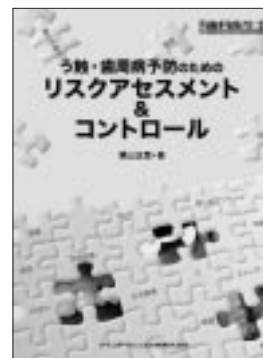
リスク評価に関して、数多くの方法が開発され臨床応用されているが、その目

的や手法について臨床家の視点で詳しく記された書籍は今まで存在しなかった。リスクコントロールに関しては、様々な考え方が主として経験的な視点で述べられてきたが、その根拠となるものと関連が示されている書籍は少なかった。今回、本書が発行されたことで、これらのことが明確になっている。

リスクコントロールの結果は時間がたたないと、その評価はむずかしい。そのために、長期にわたる患者の参画が絶対条件だが、これらのポイントについても、景山歯科医院ならではのポイントがちりばめられており、すぐに臨床応用しやすいつくりになっている。大学時代、組織学を専攻していた強みをいかした、臨床例と似通った顎骨の写真、そして「力」の観点からの考察も含まれている

のもこの本の特徴と云えるだろう。長期にわたる臨床経過を記録として残してきた氏の豊富な症例と、そのバックグラウンドになる根拠についての解説も図やグラフを多用することで視覚的にもわかりやすく、解説も平易に書かれており、どんなレベルの人でも理解を深めることができる。

これからの時代を、歯を長持ちさせ快適で健康な口腔を維持させようとする歯科医療者にはぜひとも読んでもらい、臨床の糧として頂きたい一冊である。



『むし歯って、 みがけばとまるんだヨ —削って詰めるなんてもったいない!』

著者；岡田弥生
出版；梨の木舎 2008年2月
定価；1,575円(税込)

奥富恵美子 (会員支援部会/禁煙支援部会)



長く保健所で地域貢献しておられる会員の岡田弥生さんの新刊です。

「渾身の一冊です！」という一言とともに「大多数の歯科医には不愉快な内容と心配ですが…？」との手紙も一緒に届きました。長年、保健所という貴重な現場で多くの口の中をみてきた岡田さんだからこそ、正直なおもいでしょう。どんなにがんばっても、まだまだの現状があります。今、何をすべきでしょうか…？

岡田さんとは、10数年前、日本医大の癒しの環境研究会で発会時に知り合い、たくさんの知己を得、教えて頂き、そして熊谷先生を杉並にお呼びになったときに、私たちに予防の扉をあけてくださいました。ターニングポイントでした。

その後、岡田さんは大病なさいましたが、子供たちから高齢者まで、いつも、人の尊厳と歯の尊厳はイコールなのよ！と温い熱いまなざしで活動されています。立ち止まらない人です。

話は変わりますが、先日食事に行ったホテルは混んで、案の定待たされたのですが、そこへ子供連れの若夫婦が入ってきて、待つことになりました。若いパパが「あっ、あそこが座れる。○○ちゃん、あそこに座って待ちなさい」と言ったところ、年長さんくらいでしょうか？ 小さいお嬢さんが喫煙コーナーのマークをみて「パパ、あそこはタバコを吸っている。座ったらダメ！」といったのでした。今は小さい頃から禁煙授業があります。

つい最近テレビで、石川烈さんが解説した歯周病の特集があり、サイトカイン、IL-1, TNF-αとテロップが出て、10年前

基礎コースで伊藤中先生が細菌の名前をスラスラおっしゃったことを思い出しました。今はテレビで、一般の方にも伝えられます。そして人々の健康観が進む一方で、医療者側ののちもさっちもいかない旧態依然の現状があります。医療者はどうあるべきか。今、何をすべきか…。日々の診療に誇りをもっているか…。岡田さんは、いつも問いかけます。

本の中で、医師と患者の信頼関係ははじめからあるものでなく、相互に創り出すもの。また、患者さんには本気になって伴走してくれる人を選ぶこと…と訴えています。「保健所勤務だと臨床してないんだろ？」なんていわないで、ぜひ、お手にとって読んでください。

まだまだ、やることはたくさんあります。できることもたくさんあります。近所の本屋さんに、この本を置いてくれるよう頼みましたら、快くオーケーでした。何かが動き始めています。

私達も足元を見つめながら、もっと発信しましょう。



ヘルスケアミーティング 2008

2008年11月23(日・祝)・24日(振替休日)

会場：川口市民ホール フレンディア (<http://www.friendia.jp/index.html>)

東京駅から30分(京浜東北線)、川口駅前の驚くほどアクセスの良い会場！

タイムテーブル

全体プログラム
 スタッフ向け研修
 スタッフ向け教育
 診療所づくり実践例
 歯科医師向け

11月23日(日・祝)

	12:00 ~ 13:40	13:50 ~ 15:30	16:00 ~ 17:30
ルーム 1	Program 1 「やらせてもらうわ、私は一生仕事するのよ、文句ある？」 田村 恵 (河野歯科医院) 仮題「仕事と育児~なるようにしかなりません、あせらないで！」 高須純子 (杉山歯科医院) 発表とディスカッションを行ないます 事前登録が必要です 要 事前登録	Program 4 スタッフミーティング コ・デンタルスタッフとしての日常臨床への関わり方 つだ歯科 まさき歯科医院 発表とディスカッションを行ないます 事前登録が必要です 要 事前登録	Program 7 ワークショップ 少人数グループに分かれて、ヘルスケア診療構築についてディスカッションをする。色々な考え方や解決法があることを気づくことができる。グループを地域別にして、地域でのネットワークづくりのきっかけとする。楽しく盛り上がるワークショップを行う。
ルーム 2	Program 2 ヘルスケア歯科診療とは 藤本省三 (大西歯科) ペリオドントロジー&カリオロジーの基礎知識を含む (新人スタッフ向け)	Program 5 自費のメンテナンスを考える。 河野正清 (河野歯科医院) 井上恭子 (河野歯科医院) 長山和枝 (わたなべ歯科)	
ルーム 3	Program 3 ヘルスケア診療所づくり 奮闘記 Part 1 上田康弘 (さくら歯科医院) 野村英孝 (あすなる歯科)	Program 6 ヘルスケア診療所づくり 奮闘記 Part 2 大久保篤 (おおくぼ歯科) 高橋 啓 (たかはし歯科)	
ルーム 4			

11月24日(振替休日)

	10:00 ~ 11:30	13:00 ~ 16:00	16:00 ~ 16:30
ルーム 1	Program 8 認証への道 山口将日 (山口歯科医院) 浦崎裕之 (浦崎歯科医院)	Program 11 ヘルスケア診療におけるスタッフの役割、院内内での人間関係 岩淵龍正 (経営戦略研究所 株式会社 代表取締役)	Program 13 ヘルスケア歯科診療所づくり フォローアッププログラム
ルーム 2	Program 9 シャーピング講習会 風見健一 (株式会社シャーピング CEO) 事前登録が必要です 要 事前登録		
ルーム 3	Program 10 ワンポイントレッスン会場 口腔内写真撮影 デジタルカメラの選択法 受付での電話対応 唾液検査結果の活用	Program 12 ヘルスケア診療所づくり 「知っている」を「やっている」に 千田利幸 (Boost Dream Consulting オフィス T.S 代表)	
ルーム 4	O.H.I.S の活用 禁煙支援 ウィステリア使用法と活用 検査導入のしかた タイプ別コミュニケーション		

ヘルスケアミーティング 2008

11月23日

Program 1

12:00 ~ 13:40 Room 1-2

要 事前登録

「やらせてもらうわ、私は一生仕事するのよ、文句ある？」

「仕事と育児~なるようにしかなりません、あせらないで！」

女性が、結婚、出産、子育てを乗り越えて、長期間にわたり一つの診療所に勤務し続けること、それは長期間にわたり同じ患者さんの健康維持をサポートしていくことができる、ということでもある。それを実践しているスタッフに、仕事に対する想い、長く来院者と関わってきたからこそ得られた感激や感動、そして乗り越えてきた困難等などについて語ってもらう。そして自分達もそうなるには、何が必要で、どうしたら良いのか？ グループでのディスカッションを通じて考えてみたいと思います。

Program 2

12:00 ~ 13:40 Room 3

ヘルスケア歯科診療とは

ヘルスケア型歯科診療の概念と実際とその成果について、わかりやすく説明します。ペリオドントロジーとカリオロジーについてもわかりやすく説明します。新人スタッフや、ヘルスケア歯科診療について、基本から学びなおしたい人のためのプログラムです。

Program 3

12:00 ~ 13:40 Room 4

ヘルスケア診療所づくり Part1

ヘルスケア診療所づくり Part2

Program 6

13:50 ~ 15:30 Room 4

ヘルスケア型診療所作りには、どんな医院でも様々な紆余曲折があります。成功している診療所から学ぶことも多いですが、このパートでは、今まさに「医院を作っている」4 歯科医院に登壇していただき、各々の医院が抱える現在の課題に関して、会場の方々とディスカッションしていきたいと思います。

ヘルスケア型医院作りに向かって邁進している院長を応援しに来てください。

Program 4

13:50 ~ 15:30 Room 1-2

要 事前登録

スタッフミーティング

「チーム医療を考える… コ・デンタルスタッフとしての日常臨床への関わり方」

受付、助手、新人を対象にしたプログラム。チームとしてヘルスケア型歯科医療を展開して行くうえで、歯科医師、歯科衛生士等の専門職とどのように協力し、助け合っていけば良いのか？ 2 医院からの事例発表をもとにグループでのディスカッションを行い、体験学習していきます。

Program 5

13:50 ~ 15:30 Room 3

自費のメンテナンスを考える

メンテナンスが大切、とは言っても、来院された方にその必要性に気づいてもらい、長く、継続して通っていただくことは簡単なことではありません。歯科医院側にとっても、スタッフがやりがいをもって安定したメンテナンスを行っていきける環境を整えることは意外と難しいものです。多くの歯科医院で優秀なスタッフが質の高いメンテナンスを継続的に長期に行いそれにより多くの人達が健康で幸せになるための一つの方法として自費のメンテナンスがあります。自費のメンテナンスを長年行っている医院と最近保険から自費に移行した医院の現場の声を題材にメンテナンスの本来の意義や重要性を考えてみませんか。

Program 7

16:00 ~ 17:30 Room 1-4

ワークショップ

わくわく元気になります、うれしくなります、人の喜ぶ顔が見れます、明日からの仕事が楽しみになります、誰かに教えてあげたくなります……。HC ミーティングに参加されたみなさん全員で、わいわいがやがやと楽しく盛り上がるようなワークを予定しています。内容については乞うご期待、お楽しみに！！

ヘルスケアミーティング 2008

11月24日

Program 8

10:00 ~ 11:30 Room 1

認証への道

なぜ認証を受けようと思ったのか？ 認証を受けるために何をしなければいけなかったのか？ 認証を受けたことで、なにが変わったのか？ などなど認証診療所に聞いてみましょう

Program 9

10:00 ~ 11:30 Room 2

シャープニング講習会

この講習会に参加すれば、あなたもシャープニングの達人になれます。
要 事前登録
事前予約が必要です。

Program 10

10:00 ~ 11:30 Room 3-4

ワンポイントレッスン会場

ヘルスケア型診療室を実践していくにあたって直面する種々の問題を解消します。口腔内写真撮影法、デジタルカメラ・撮影機材の選び方、受付での電話対応、唾液検査結果の活用、O.H.I.Sの活用、禁煙支援、ウイステリアの使用法と活用、検査導入・説明の仕方、タイプ別コミュニケーションの取り方、など

Program 11

13:00 ~ 16:00 Room 1-3

ヘルスケア診療におけるスタッフの役割、院内での人間関係

あなたは何故、今の歯科医院に就職しようと思ったのですか？ 歯科医院でどんな仕事を、しようと思ったのですか？ どんな風に、働きたいと思ったのですか？ 今の自分に、仕事に、満足していますか？ このセミナーは、あなたの周りの人間関係を少しでも良好に、仕事に対する意識を少しでも高く、あなたの医院に来る患者さんを少しでも良い気分にしてくれます。そしてその少しの変化が、大きな結果を数ヵ月後のあなたや医院にもたらすでしょう。明日からもっと自信を持って働けるようになるヒントがいっぱいの、3時間です。

Program 12

13:00 ~ 16:00 Room 4

ヘルスケア歯科診療所づくり 「知っている」を「やっている」に！

人は誰でも悩み・不安も持っています。それをクリアしたとき、どんな夢がみえますか？ あなたが知っているけど実行に移せないこと、実行に移すことが難しいと考えていること。それが「やっている」に変わったら、どんな夢がなくなりますか？ 毎日の診療をワクワク楽しく過ごし、支援する楽しさに気がつけるパートです。元気になることを約束します！

Program 13

16:00 ~ 16:30 Room 1-3

ヘルスケア歯科診療所づくり フォローアッププログラム

講習会やシンポジウムに出た後はいつも、「ヨーシやるぞー」という気持ちになっているのに、日が経つにつれその気持ちが薄れていき、結局何も変わらなかったという体験はありませんか。このプログラムはそのようなことのないように、ヘルスケア型診療所作りの各段階を、プログラムの参加者みんなと一緒にステップアップしていけるようにフォローしていくための企画です。シンポジウムの最後で詳細について説明し参加者を募ります。

次回ニューズレター (Vol.11 no.3 6月末発行) より参加申し込みを受け付けます。
ぜひ診療所のスケジュールに組み込んでおいてください。

スタッフ全員参加が ● ● ● ● ●

仕事のモチベーションを上げる  **近道** です

本会催しもの
案内

あなたの一歩が
歯科医療を変える

ワンデーセミナー大阪 (基礎コース改め)

日時: 2008年6月15日(日) 午前9:50 ~ 午後4:10

会場: 千里ライフサイエンスセンター サイエンスホール (大阪府豊中市新千里東町1丁目4番2号)

ワンデーセミナー大阪 プログラム

- 9:50 ~ 10:00 オリエンテーション
- 10:00 ~ 10:45 「健康を守り育てる歯科医療」とは 杉山精一
- 10:45 ~ 12:00 杉山歯科での日常臨床 杉山精一 蓮見愛 (歯科衛生士)
- 12:00 ~ 13:00 昼食休憩 (お弁当は用意していません)
- 13:00 ~ 14:50 ペリオドントロジーとカリオロジーに基づく臨床 足本敦
休憩 (10分)
- 15:00 ~ 15:50 ヘルスケア七転び八起きーヘルスケアとの出会いから現在まで 田中正大
- 15:50 ~ 16:10 まとめと質疑応答

ワンデーセミナー福岡 (基礎コース改め)

日時: 2008年6月29日(日) 午前9:50 ~ 午後4:10

会場: 福岡商工会議所会議室 505 (福岡市博多区博多駅前2丁目9-28)

ワンデーセミナー福岡 プログラム

- 9:50 ~ 10:00 オリエンテーション
- 10:00 ~ 11:00 「健康を守り育てる歯科医療」とは 藤木省三
- 11:00 ~ 12:00 ヘルスケアとの出会いから現在まで 斉藤仁
- 12:00 ~ 13:00 昼食休憩 (お弁当は用意していません)
- 13:00 ~ 14:20 ペリオドントロジーとカリオロジーに基づく臨床 斉藤仁
休憩 (10分)
- 14:30 ~ 15:50 長期症例から見えてくるもの 藤木省三
- 15:50 ~ 16:10 まとめと質疑応答

参加費
(共通)

〈会員〉

会員歯科医師 10,000円
会員・準会員スタッフ 4,000円

〈非会員〉

非会員歯科医師 12,000円
非会員スタッフ 4,000円

ワンデーセミナー 参加申込書 Fax. 03-3260-4906

※該当する□に✓をご記入ください

大阪 (6月15日) 福岡 (6月29日) セミナーに参加申し込みます

会員用 (news11-2)

参加者氏名	会員 No.	<input type="checkbox"/> 会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 会員歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 準会員 <input type="checkbox"/> 非会員歯科医師
参加者氏名	会員 No.	<input type="checkbox"/> 会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 会員歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 準会員 <input type="checkbox"/> 非会員歯科医師
参加者氏名	会員 No.	<input type="checkbox"/> 会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 会員歯科衛生士 <input type="checkbox"/> 準会員 <input type="checkbox"/> 非会員歯科医師

勤務先・診療所名

住所 〒 - -	TEL. - -
	FAX. - -